

平成に逝った友たち

▲平成が終わる時、思い出したのが平成時代に亡くなった友のことである。

上田で事業を経営していた永井寛君 (4組) が亡くなったのは平成 22 年 3 月のこと。仕事では日本と東南アジアを往ったり来たり、ゴルフやお酒で同期の付き合いでも元気いっぱいだった寛 (かん) ちゃんが、「どうして?」とびっくりしたものだ。

亡くなる半年ほど前、高田馬場での 4 組のクラス会に病気を押して上田から駆けつけてくれたが、今から思うと最後のお別れに来てくれたのだろうか。

今はご子息の洋平君 (99 期) が矢島好高君の長男の好太郎君 (99 期) と (二人とも風貌が親父に似てきた) 関東同窓会のイベントに顔を出してくれるのが嬉しい。

▲中国で事業を興し活躍していた小山雅堂君 (2組) は、1 年間の闘病の末、平成 23 年 11 月に横浜の病院で亡くなった。

仲間思いの彼は同期の集まりには中国からでも必ず参加してくれたものだ。

亡くなる二年前、2 組のクラス仲間 5 人が中国・上海へ飛び、雅堂君が豪華クラス会を設営してくれた。老舗中華料理の「梅龍鎮」、「王宝和」といった店での会食も、我々のためにチャーターしてくれた夜の黄浦江遊覧も贅沢な思い出である。

「また、上海に来てよ」と言われたことが実現できなかったのが残念だ。

▲平成 27 年の元旦、上田の老舗宝飾店主の矢島好高君 (7組) の訃報を聞いた。

永遠の“夢追い人”だった矢島君は、蚕都上田のカルチャーを世の中に伝播しようと亡くなる最後まで懸命に動き回っていた。

絵が好きだった彼の描いた YAJIMA の大型カレンダーは、今では妹の万記子さんが引き継いでくれ、毎年我が家の壁を飾っている。

▲蚕といえば昆虫学者の竹田敏君 (10組) が亡くなったのは平成 26 年 2 月のこと。

蚕の繋がりでは、ギャラリー YAJIMA で竹田君の講演会も行われた。

多才で俳句やエッセイ、絵も上手な竹田君だったが、遺稿句集「竹酔郎百句」は味わい深い。死後、奥様の手で発行された『幕末に海を渡った養蚕書』(東海大学出版部) は志半ばで病魔に倒れた無念さが伺えて読むと辛いものがある。

▲昔は古希といえれば稀なほどの長命だったが、今ではまだまだ元気なじいさん、ばあさんである。平成の終わりをることなく鬼籍に入った同期の仲間達を追悼するとともに、残った我々は平成に続く新しい時代を出来るだけ長く見守っていきたいものである。

(2019 年 2 月記)

【写真1：同期ゴルフコンペで優勝した永井君（2008. 8. 14）】



【写真2：上海、森ビル 100 階 SkyWalk にて（2009. 2. 6）】

写真左端が小山君、左から 3 人目が筆者



【写真3：家族と一緒に矢島君（2014. 6. 13）】

